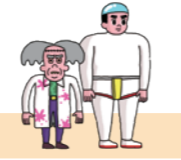




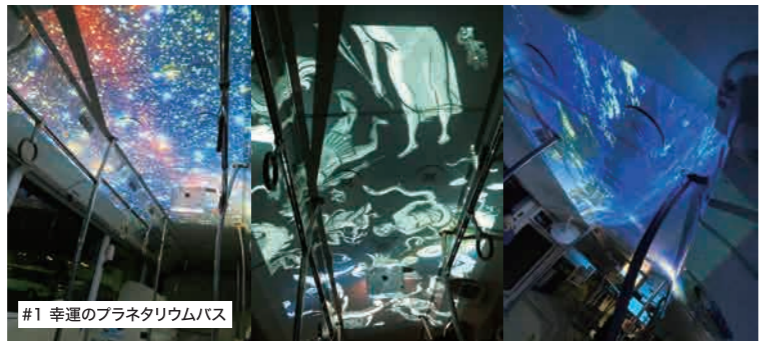
使いたくなる公共交通

公共交通を持続可能にするためにサービスのあり姿を追求します。



公共交通事業の再起 宇宙一面白い公共交通を目指すプロジェクト

バス事業存続の正念場と捉え、「宇宙一面白い公共交通」を目指して、2022年1月からプロジェクトがスタート。第1フェーズとしてバスに乗りたくなる仕掛けを施し、1年間にわたる長期利用促進キャンペーンを実施しました。引き続き、バス事業をサービス業として見つめなおし、ご利用者の声を聞きながら、赤字続きの公共交通事業の再起を懸けた挑戦を続けます。



#1 幸運のプラネタリウムバス

面白いバスで宇宙へ



#3 贈る言葉バス

#5 5月のモヤモヤふっ飛バス

沿道環境向上 パーク&バスライド

パーク・アンド・バスライドは、マイカーからバスに乗り換えてもらうことにより、渋滞の緩和や排ガスによる大気汚染抑制など沿道環境の向上が期待できるシステムです。岡山市が運用する同システムに、両備バスと岡電バスが協力して利用促進を図ります。



公共交通を利用 宅配サービス

和歌山電鐵(和歌山県)が宅配業者と2018年2月に貨客混載事業推進で調印。東備バス(岡山県瀬戸内市)も2020年3月から宅配業者との配送サービスで連携し、貨客混載による宅配事業を開始しました。

自転車積載スペースを設置 路線バス「SAIBUS」

自転車を載せることができる路線バス「SAIBUS(サイバス)」を運行。両備バスの前身である西大寺鉄道が運行していた鉄道車両から着想を得ました。今後の地域の公共交通のあり方を提案しています。自転車での観光客(サイクリスト)に向けての需要獲得も図ります。



地域公共交通を守る

すべての人が所定の運賃で自由に移動することができる持続可能な公共手段を守ります。



課題を解決 地公研の取り組み

地域公共交通の再生実績と知見を活かし、市民生活を支える地域公共交通の再生と維持・発展の一助となることを目的として2013年4月に一般財団法人地域公共交通総合研究所(地公研)を設立。以来、地方が抱える公共交通の課題を民間交通事業者ならではの視点で支援業務に当たり、地域公共交通の維持・存続の道筋を示しています。

地域と連携 地元大学との取り組み

地公研は岡山大学法科大学院と、地域公共交通をどう守るかなどの法的課題の研究連携に関する協定を2014年3月に締結。また、環太平洋大学人財教育において連携協定を2021年2月に締結しました。

公共交通再生 廃線危機にあった和歌山電鐵をアイデアで救済

和歌山電鐵貴志川線の貴志駅に「たま駅長」を誕生させる等のアイデアで、ローカル線の集客、公共交通再生に貢献。2012年2月に学芸出版社より出版された両備グループの代表兼CEOである小嶋光信の初の著作本「日本のローカル線をつくる たま駅長に学ぶ公共交通再生」にて、地方が抱える課題を分かりやすく伝えています。

和歌山電鐵「キシカイセイブプロジェクト」
将来廃線の危機に陥らないようにと願い、路線名(貴志川線)の「貴志」と「起死」を掛けたネーミングの「キシカイセイブプロジェクト」を2019年8月に発表。和歌山市と紀の川市を結ぶ公共交通である貴志川線の安定的な永続運行を目指しています。



猫の駅長と公共交通再生!



到着時刻の見える化 Bus-Vision

「Bus-Vision(バスビジョン)」はバスや路面電車の遅れなど運行状況や現在位置のほか、目的地への到着予定時刻をリアルタイムに提供するシステムです。ご利用者はスマホで確認できます。公共交通での移動をより快適に、便利にします。



Bus-Vision